

B-26 皮脂汚れと牛脂汚れの洗浄性比較 —木綿メリヤス肌着地について—

愛知教育大 平尾 あや

1. 牛脂（人工汚染液中の動物油）と皮脂の汚れの洗浄性について、洗剤主成分（ABS と SDS）（濃度 0.1%）・洗浄温度（20, 40, 60°C）・燐酸塩添加濃度（0, 0.1, 0.3%）などの影響を調査することを目的とした。

2. 木綿メリヤス試布（7×14 cm）を用いて、牛脂汚れ布（牛脂 0.5% ベンゼン液 1 cc 滴下収着）と皮脂汚れ布（試布をとじつけた肌着を 3 時間着用・被験者 102 名）とを作り、両汚れ布 4 枚：4 枚を 1 回の洗浄として繰返し 2 回すなわち 8 枚宛の洗浄布の測定値を求めた。汚れは単分子膜レンズ法で測定した。

3. ABS と SDS の洗浄性は、洗浄温度・燐酸塩添加濃度の関係において、牛脂と皮脂にその性格は異ってあらわれた。温度影響は、牛脂と皮脂の汚れに対して反対に働き、牛脂では高温の結果がよく、皮脂では低温の結果がよい。燐酸塩濃度の影響は、牛脂と皮脂・ABS と SDS に対し傾向がまちまちで、皮脂汚れの SDS 洗浄に特異性があらわれた。燐酸塩添加洗浄の場合、牛脂汚れの洗浄効率値のばらつきは小となり効率値は安定するが皮脂汚れの場合、この安定度は認められない。牛脂と皮脂の汚れ除去の性格は異なり、人工汚れと天然汚れの洗浄性の不一致の一原因が牛脂にあると思われる。